

研究構想図

【学校目標】

- 進んで学びくふうする子
- 思いやりのある子
- 健康でたくましい子

【児童の実態】

- ・ほとんどの児童が体育の授業が好きである。
- ・数値としての伸び、勝敗、体感として自分の成長が分かりやすいところで体育の楽しさを感じている児童が多い。
- ・授業中での思考的活動が苦手である。
- ・「うまくできないとき」体育が楽しくないと感じている児童が多い。
- ・学習の見通しをもって活動している児童が少ない。

【体育科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるように する。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【研究主題】

主体的に学習に取り組む子の育成 ～教材の工夫を通して～

【目指す児童像】

【低学年】

すすんで運動遊びに取り組み、運動遊びに触れ、考えたことを友達に伝える子

【中学年】

運動の楽しさや喜びに触れ、課題を解決するために協力し、考えを伝え合う子

【高学年】

運動する楽しさや喜びを味わい、自己の課題を見付け、関わり合いながら、解決の仕方を工夫する子



【研究仮説】

体育科の時間における児童の「主体的」な姿を明確にし、「主体的」な姿の実現に向けた手立てを考え、授業改善を図ることにより、主体的に学習に取り組む子が育成できるであろう。

【研究の視点】

主体的に運動に取り組むための教材の工夫や手立て